

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年11月

（１）与論島の今期さとうきび収量見込が算出される

与論島の今期さとうきび収量見込が算出されました。令和7/8年度のさとうきび生産量は24,700tで、2年連続で20,000tを超える見込みです。単収は6,069kg/10a、収穫面積は407haの見込みとなりました。圧搾は12月12日に開始され、翌年3月23日に終了の予定です。今期も計画通りに製糖作業が終了するよう、関係機関と連携し農作業安全にも留意しながら、農家に指導・支援を行います。

（２）さとうきび生産改善共励会で知名町農家が県知事賞を受賞！

鹿児島県糖業振興協会主催の令和7年度さとうきび生産改善共励会において、知名町の福井源規氏が最優秀賞の鹿児島県知事賞を受賞しました。11月23日に開催された知名町産業フェアにおいて授賞式が行われ、福井氏は、「祖父、父とさとうきび経営を受け継いできて初めての受賞でうれしい、これからも地域の農業に貢献できるよう頑張りたい」と感想を語っていました。今回の受賞で、さとうきび生産に対する意欲がより一層高まっていたようでした。



（３）簡単おにぎり&お味噌汁づくり体験で女性農業者が食育

11月23日に開催された和泊町農業祭で、女性農業者組織スマイル&フレッシュが、簡単おにぎり&お味噌汁づくり体験を出展しました。子どもから大人まで延べ161人が参加し、それぞれが好きな具を選んで楽しそうにおにぎりをにぎり、「おいしい」の一言。生活研究グループのお味噌で作ったお味噌汁も好評でした。かごしま版食育バランスガイドエプロンやお米ぬいぐるみなども活用し、ごはん中心の日本食は、バランスの良い食事であることもPRしました。今後も、地域農業者と一緒に食育・地産地消を推進していきます。

（４）よろん和牛女子会研修会を開催

よろん和牛女子会研修会が、会員12人、町職員1人及び農業普及課職員2人の出席のもと11月11日に開催されました。はじめに、現地検討会として会員2人の牛舎を訪問し、飼養管理の工夫点などについて意見交換を行いました。その後、町役場会議室で11月セリ市の結果について、農業普及課が各会員の分析データをもとに説明を行いました。会員が出荷する子牛は、市場平均より高値で取引されるものが多く、よろん和牛女子会は、地域の肉用牛振興を担っていることから、今後も引き続き支援を行っていきます。



（５）知名町産業フェアで4HCが出店、地域行事を盛り上げる！

11月23日に開催された知名町産業フェアで、知名町農業青年クラブが出店し、会場を盛り上げました。ブースでは、クラブ員が生産した島みかん、トウガラシ、ハチミツなどの他、焼きうどん、揚げたこ焼き、かき氷を販売しました。クラブ員一同、呼び込みや販売に積極的に参画しており、ふだんの農業と違う仕事にもはつらつと活動していました。商品は子供や親子連れなどの町民に大変人気で、売り上げも好調のようでした。寒い時期での開催でしたが、クラブ員の明るい笑顔で会場は熱気に包まれていました。



(6) 夫婦仲良く農業経営発展へ向けて家族経営協定締結

与論町の野菜農家が11月26日に夫婦で家族経営協定を締結しました。経営方針や役割分担などの協定内容は、関係機関を交え話し合いました。妻は、「昨年度の女性農業経営士養成研修で協定を学び、経営の道しるべになると思った。」、夫は、「協定が経営を見直す良い機会になった。お世話になった島の方や家族のために頑張りたい。」と抱負を述べました。農業委員長は、「素晴らしい機会に立ち会うことができた。仲良く手を取り合って農業をしてほしい。」と激励しました。今後も経営発展へ向けて支援していきます。



(7) えだまめ現地検討会を開催

11月6日、知名町のえだまめ生産者ほ場で現地検討会が開催され、約15人が参加しました。生産者からは、かん水や病害虫防除の徹底により順調に生育しているとの声が多く聞かれました。農業普及課からは病害虫の発生状況とこれからの防除方法について情報提供を行いました。また、今後も高温が続くことが予想されていることから、引き続きかん水の徹底と、収穫適期を逃さぬようにこまめに生育状況の確認を行うよう呼びかけました。これから収穫に向けて、産地一丸となってえだまめ栽培に取り組んでいきます。



(8) さといも栽培技術研修会で病気防除や施肥について学ぶ

10月27日、JAあまみ与論セリ市場でさといも栽培研修会を開催し、約60名が参加しました。研修会では、肥料比較試験を基にした施肥・追肥方法、生産者アンケート結果（前年度栽培状況や疫病・乾腐病の発生動向）を考慮した栽培のポイントについて学びました。前年度は疫病の発生が少なかったものの、乾腐病は増加傾向にあり、令和6年11月の大雨や低温により予定通り栽培できなかった生産者も多く、今作で挽回できるように関係機関一体となり増収に向けて支援をしていきます。

